

# かぐらおが

(題字は前学長 山田守英氏)

## 第 28 号

昭和56年 8月 1日

編集 旭川医科大学  
 厚生補導委員会  
 発行 旭川医科大学教務部学生課



(写真撮影 学生課 森田祐子)

常磐公園

### 内 容

退任にあたって —旭川医大を思う—	山田 守英	2
就任所感	黒田 一秀	3
免疫遺伝学の流れ	片桐	4
第3回卒業式挙行		5
昭和56年度入学式		6
新入生合同グループ研修		6

研究室紹介	高橋 三郎	6
昭和56年度学生団体一覧		7
少年の交通法令違反連絡制度について		8
課外活動短信		8
窓 外	天羽 一夫	8



# 退任にあたって

—旭川医大を思う—

前学長 山田守英

私は6月30日学長を退任しました。昭和47年7月1日旭川医大の創設準備を開始してから満9年になります。大学の建設は学年進行により、逐次拡充整備されましたが、昭和54年3月第一期生が卒業すると同時に、一応完了いたしました。次いで4月には大学院医学研究科も設置され、本学の教育、研究及び附属病院の診療は既に軌道に乗り、今日に至りました。

大学の創設は並大抵なことではありません。殊に医科大学の場合、教育、研究並びに附属病院の診療の3つの機構が有機的に連繫して、それぞれ機能を十分に発揮できるように建設しなければなりません。これには多数の重要な要因が複雑に関連しているのです。どの要因も一つとして疎かにはできません。したがって大学建設は、1人や2人の微力では、到底完璧を期すことはできません。また、国立大学は、制度上複雑な法律や規則、基準等があり、予算の制約もありますので、その建設は画一的になり、自由構想による独特な大学の建設は望むべくもなく、複雑な制約の枠内で特色ある大学の建設が許されるだけであります。旭川医大の場合、創設準備の当初、建設の基本構想を樹て、建設には私自身当然全力を傾注しましたが、幸にも本学には多数の有能な教官が就任されましたので、その英知を結集し、一致協力して建設に当たっていただきました。こうして今日の旭川医大の実現をみる事ができたのであります。

本学では先ず教育について、大学入学から卒業まで6年間一貫教育を行うことを根本方針としました。勿論カリキュラムなどは、度々改革されてきましたが、この根本方針は終始関係の教官各位の努力によって、今日まで貫かれてきました。この点は新設医大で成し得る一つの特色ではないかと思えます。

大学の使命として教育と同等に重要なのは研究であることは申すまでもありませんが、私は教育と研究は一体であるべきで、勝れた研究者こそ勝れた教育者たり得ると考えています。特に大学における教育は“生きた教育”でなければなりません。生きた教育は勝れた活発な研究者によってこそ達せられます。医科大学の学生は、大多数は将来医師になりますが、医師こそ日々の医療に当って“研究する心”がなければなりません。この“研究する心”は、大学時代に勝れた研究者であり且つ勝れた教育者である教官の指導によって育まれるものと信じます。

医科大学では、各専門分野における研究者個人の自由発想による独創的研究は勿論ですが、同時に分野を異に

する研究者達が連繫協力して、スケールの大きな学際的研究の生れることも重要であります。それには研究が育つに相応しい研究環境がなければなりません。本学では中央研究組織制度を設け、動物実験施設、実験実習機器センター、RI研究施設等を設置し、現在極めて能率的に利用されております。殊に前二者は現在正式に大学附置の研究施設となっております。本学には既にいくつかの国際水準の研究が発表されていますが、今後はこの研究環境が益々拡充発展し、独創的な研究が相踵いで出ることを希うものであります。また本学には、独特な機構の大学院医学研究科が設置され、研究者が育成されつつありますが、やがて将来は研究推進の中堅となることを期待しております。

本学の附属病院は開院以来5年に垂んとしてありますが、既に軌道に乗り地域医療センター病院としての役割を十分に果し、同時に学生の臨床実習並びに研修医の研修の場として、その機能を発揮し、更に臨床医学の新しい研究課題を提供しています。将来は開かれた大学として、医師の生涯教育のため、医療研修及び医学研究の場ともなることでしょう。

本学創設以来の9年間は、その基礎づくりの時代でありました。幸い、関係各位の絶大なる御協力によって、一応満足すべき基礎づくりは完了いたしました。ここに御協力いただいた学内並びに学外の関係各位に深甚なる感謝の意を表するものであります。ただ創設当初建設計画の中にありました附属看護学校の設置などが、未了のまま残っておりますが、これは時勢の推移と国家財政の変動のため無期延期となったもので、将来復活設置される時期の到来することを希って止まないものであります。

私は「大学は生きものである」と考えています。医大は学生、教官、職員、研修医、研究生等により構成され、恰も生体の臓器細胞のように、それぞれの立場と機能に応じて瞬時も休まず秩序ある活動をつづけつつ、未永く成長発展していきます。旭川医大は既に創設建設期は終り、新しい世代に移りましたが、どうか新世代の大学人の協力によって今までに築かれた基礎の上に、より充実したユニークな大学として成長発展されんことを切に希うものであります。各位の今後の御健闘を祈って止みません。

(名誉教授)



# 就 任 所 感

学 長 黒 田 一 秀

なんち若かりし時は自ら帯して欲する処を歩めり、されど老  
いては手を伸べて他の人に帯せられ、汝の欲せぬ処に連れゆ  
かれん  
ヨハネ伝 21:18

昭和47年旭川医大病院長予定者にとのお話のあった時は、まさに晴天の霹靂をきいた思いであった。この度学長職をおあずかりすることは、それとはいささか異っていて、副学長・病院長・泌尿器科教授として学内で、実際上渦中であってここに至ったわけである。しかしどちらの場合でも、内心ではいわば同じ運命の力が働いていると思うのである。何も分らないのに、ひとつ関門に立たされる度に、新しい展望が啓かれ、大きな力の促しをうけて、勇気を出して次の世界を歩き始めることになるのを感じるのである。

大学運営の責任は学長にあるが、大学構成員の一人一人の仕事が大学の業績であり、その一人一人の仕事が支障なく遂行されるよう諸条件を整備するのが学長の任務であろう。

山田前学長のもので、本学はその胎生期を加えれば9年を経た。その間社会の変動をのりこえて、教職員も施設も整い、卒業生は3回送り出し、大学として確固たる基礎と最初の成果が得られた。曾ていくつかの大学の発展過程をたどって見たら、卒業生が母校の教授職に就くようになるには、開設して20年前後を要しているのに気がついた。一つの精神形成が行われて表にあらわれるのに、それ位の時間がかかるということであろう。間もなく昭和58年には開学10周年を迎えることになる。私たちは成長の一番大切な時期にあるのである。

在来大学は、専門の学芸を教授研究するところで、近代的合理主義を尊重することが前提であった。その結果、技術主義的な専門別学術研究機関、専門的職業教育機関としての大学ができてきた。とくに医学校はその色彩が強かったと思う。しかし合理主義を看板にしてきた大学の管理運営がほんとうに理性的合理的に行われたかという、大いに疑問をもつ。先頃の大学紛争が医学部を一つの中心として起こったこともその証拠であろう。学術研究に熱心に従事しているうちに、大学人は、専門細分化に閉じこもって、互に語り合うことを怠り、共通の言葉を失い、各自が通用しない方言を語っていたといえないであろうか。

私たちは自然科学を研究しているつもりであるが、医学校である以上、何よりも人間が主題でなければならぬ

い。人間は自然であると同時に自然の枠をこえた価値観を持つ特別な存在であると把握することが重要ではないだろうか。人間を学術の面で研究すると同時に、人間を人間として対応する心掛が、象牙の塔の住人には不十分でなかったかと反省されるのである。大学もよい人間関係を保たずしては存続し得ない。私たちの学則にも、医師、医学研究者の育成を倫理性人間性の基礎の上に置くとして述べていることを覚えてほしい。

旭川医科大学は関東や関西にあるのではなく、道北の主都である旭川にある。その地理的位置による社会的な負託を誰も否定することはできない。同時に学術は国際的あるいは地球的普遍妥当性を求める作業である。また計画には短期のも長期のものもある。現代はあまりにも時勢の求めに捉われて長い目でものを見ようとしないうれしが強すぎる。私たちはいま1980年代を生きている。同時に時代を超えた永遠なものを指向している。大学はこの時間と空間に関する二重性のなかで、時空を貫く精神性、靈性を忘れず、人間存在の本質を究める集団であると思うのである。

当面の問題に触れると、学生定員が1学年120名に増員されて3年、現在学年進行中で、既に一部実行されているが、今後対応を考えねばならない。カリキュラムの再編もせまられている。既設中央研究棟に5階建新棟が増築され、実験実習機器センターとして新発足した。動物実験施設に加えて2施設となった。附属病院では特殊診療棟が新設された。いずれも今後の活動が期待される。病院増床は困難であるが、増員した学生実習の対応も検討課題である。サービス部門で売店、食堂等の拡張工事が間もなく完了する。

私たちは創立以来、それぞれの部署で仕事を積み重ねてきた。今回、生新の気運のなかで、小野寺、吉岡両副学長を迎えることができた。

皆様と共に、大学の発展のために進もうと思いを新たにしているのである。



# 免疫遺伝学の流れ

片 桐 一

昨年度のノーベル医学生理学賞は「免疫応答の遺伝学的制御の研究」に対してG. Snell, B. Benaceraff, J. Daussetの三博士へ授与されました。この3人は隆盛をきわめている現代免疫遺伝学をきざした人々です。免疫遺伝学のルーツをたどると、Landsteinerが1900年に大部分のヒトの血清には多くのヒトの赤血球を凝集させたり溶血させる物質のあることを見出し、ヒトの赤血球をA、B、O、ABの4つのグループに分類したことに始まります。そしてA型物質とB型物質はメンデルの法則に従って遺伝することが明らかになりました。これは免疫学的に検出される抗原を遺伝学的に解析した最初の例です。これに相次いでMN式血液型、Q式血液型等の血液型が発見され、この様な免疫学的手法を用いて検出される形質について遺伝様式を解明しようとする研究に対し、Irwinは「免疫遺伝学」と言う言葉を与えました。

引きつづいてGrubbが抗Rh抗体で感作した赤血球を凝集する関節リウマチ患者血清の作用が、正常血清で阻止されたり又はされなかつたりすることを見出し、即ち免疫グロブリンアロタイプGmを発見しました。そしてこのアロタイプはメンデルの法則に従って優性遺伝することが明らかにされました。免疫グロブリンにアロタイプが見出されたことは免疫機能の担い手である免疫グロブリンの遺伝子支配を研究する上に重要な手段を与えました。

これらの研究の流れとは別に今世紀のはじめからLittleらによりマウス皮膚（又は腫瘍）を他の系統のマウスに移植する実験がすすめられ、皮膚移植が成功（腫瘍移植の場合は腫瘍死）するか否かを左右する生物学的機構の解析が追求されていました。そして遺伝学的解析の結果皮膚移植が成立するか否かは多数の遺伝子座のそれぞれの遺伝子により支配されることが明らかになり、それぞれを組織適合遺伝子座（H）と呼んでいます。これらの組織適合遺伝子のうち、特に移植の成否に強い影響を与えるものを主要組織適合遺伝子と呼んでいます。Snellはアメリカメイン州の片田舎にあるJackson研究所にあって、これらの組織適合遺伝子群の概念を作りあげたばかりでなく、マウス主要組織適合遺伝子群（H-2）は異なるが他の遺伝学的背景の全く等しいマウスを多数作り、マウス主要組織適合遺伝子群の解析をバクテリアの突然変異株を用いる研究の様に容易にしました。これらの研究は、当初は単なる移植と言う操作を通してのみみられる現象の解析と受けとめられていました。しかし1960年

代に入り外来抗原に対する免疫応答性（抗体を作り易いか否か）は単一優性遺伝子によって支配されることが発見され、そしてこれらの免疫応答遺伝子群のあるものは主要組織適合遺伝子群と連鎖していることがMcDevitt及びBenaceraff等により明らかにされました。その後、これ返単に移植と言う生体内では起こり得ない人工的操作で見出される主要組織適合遺伝子群と遺伝子産物は免疫応答遺伝子群とその遺伝子産物に結びついてクローアップされ、今日の免疫遺伝学研究の大きな柱となっています。ハーバード大学病理学教授のBenaceraffは、免疫応答性を支える細胞間相互作用を分子レベルで解析し免疫応答遺伝子群の解析を推進しています。

これらのマウスを用いて得られた知見をヒトに還元して考えるのは医学者にとって当然なことと思います。主要組織適合遺伝子群の遺伝子産物は白血球をはじめとする全身の臓器組織細胞の細胞膜に発現されています。パリ大学免疫血液学研究所のDausset教授は、あるヒトの血清がヒト白血球を凝集することを見出し、これをMac抗原と名付けました。これが現在のHLA-A2抗原と呼ばれる抗原で、ヒトの主要組織適合遺伝子産物を検出した最初です。その後マウスでみられる数々の新知見に刺激されてヒトの主要組織適合遺伝子群（HLA）が急速に明らかにされて来ました。特にHLA遺伝子領域中の免疫応答遺伝子群とその遺伝子産物の解析は世界の研究室で活発にすすめられており、われわれの教室の若い学徒も夜を徹して研究に没頭しています。

これらの免疫応答遺伝子群の研究は、これからも免疫遺伝学の大きなテーマとなっていくでしょう。現在はこれらの研究に細胞工学及び遺伝子工学の波がひしひしとおし寄せ、自然現象の解明に向けて研究は常に動いています。この流れにのり、いや将来の流れの方向をみきわめ、新しい学門の夜明けを北国の春と共にむかいたいものです。

（病理学第二講座 教授）

## 第3回卒業式挙行

3月25日(水)午前10時30分から、本学体育館において第3回卒業証書授与式が挙行された。父兄、教職員約150名の祝福の中で、卒業生89名(内女子学生7名)は、1人1人学長から卒業証書を手渡され、感慨無量の面持ちであった。

なお、第71回医師国家試験は、本学から93名が受験し、昭和56年5月16日付けの厚生省の発表では90名が合格、合格率96.77%で、全国国公立大学で第2位の成績であった。

卒業生の動向は次のとおり。(学生課)



卒業生の動向一覧

氏名	現住所	連絡先
相田 一郎	住吉町4条 3833	第2 解剖
足立 英明	札幌市東区本町2条7丁目	札幌大第1外科
井尻 正廣	札幌市東区伏古8条2丁目10の13 田面ハイッ	札幌 勤 医 協
今村 昌幹	沖繩県具志川市字宮里208の3	沖繩県立中部病院
上原 聡	8条西3丁目 渡辺博方	第3内科(大学院)
江尻 倫昭	富山県婦負郡八尾町上新町 2670	富山医科薬科大学
大島 英二	神楽4条12丁目 伊藤方	第2 内科
大野 高子	緑が丘5条3丁目 田辺文男方	眼科(大学院)
小笠原正洋	旭神町4 武王プラザ311号	第2 内科
奥山 修兒	緑が丘4の3 道住72-R-112	第3 内科
木下 透	札幌市中央区宮の森1条3丁目	第2 外科
櫛部 朗	神楽6条13丁目 長浜方	第2 外科
熊井 惠美	神楽岡6条5丁目	耳鼻咽喉科(大学院)
計良 基治	札幌市中央区南11条西14丁目 コーボかえで	北大 整形外科
幸田 弘信	神楽1条12丁目 旭宝マンションB-6	第3 内科
佐々木公則	旭神町4 武王プラザ 216号	産婦人科(大学院)
佐藤 綾子	緑が丘1条4丁目 谷嶺男方	第1 外科
佐藤 卓	旭神町4 武王プラザ 213号	産婦人科(大学院)
佐藤 幸文	東京都墨田区文花2-14-4	東京民医連大田病院
品田 雅博	7条21丁目 清和荘	小 児 科
瀬川 雅史	札幌市西区山ノ手1条7丁目	札幌 勤 医 協
田中 充	横須賀市本町1丁目	米海軍医療センター
中川 基哉	札幌市中央区北5条西29丁目 宮の森ランドハイッ 701	札幌大第1外科
西原 功	緑が丘2条4丁目 坂下方	脳神経外科

野中 聡	旭神町19番地 医学寮	耳鼻咽喉科(大学院)
林 委子	札幌市白石区栄通16丁目	北大精神科神経科
平野 亮	大阪市浪速区大田町1-131	大阪市立大学 脳神経外科 第1外科(大学院)
藤井 宏一	神楽4条10丁目 秀鶴荘B202	泌尿器科
藤井 敬三	東光7条5丁目 奥野マンション	第1内科
丸山 純一	8条23丁目 アーバンライフ小野 401号	第3内科
村上 雅則	神楽7条14丁目 吉田マンション 203号	小児科(大学院)
室野 晃一	旭神町4 武王プラザ 321	札幌市立病院
安友 紀幸	札幌市豊平区平岸4条18丁目 市立札幌病院西宿舎 305	第2外科
矢吹 英彦	札幌市北区麻生町1丁目	第3内科
山野 三紀	南5条25丁目 谷口MS A-2F-2	第2内科
横山 良伸	東京都新宿区北町31 東京厚生年金病院 北町宿舎 203	泌尿器科
若林 昭	南4条21丁目 伊達嘉一方	脳神経外科
渡辺 一哉	神楽岡6条7丁目	北大病理(大学院)
石川 直	札幌市中央区北2条西6丁目 東 芳子方	小 児 科
田崎 卓見	東光9条4丁目 西村荘	第3内科
石川 裕司	宮下通21丁目 奥山ハイッ	第3内科
池 薫	豊岡4条3丁目 豊和荘8号室	第1内科
佐竹 賢三	茨城県勝田市春日町8-10	第3内科
今本 哲郎	南3条24丁目 サンシャイン南3条20-A	第3内科
奥野 一嘉	神楽岡1条5丁目3番地	第3内科
佐々木隆博	緑が丘4条4丁目 道住77-R-925	札幌大 胸部外科
浅利 和彦	札幌市豊平区北野227の374	泌尿器科
大橋 健児	神楽7条13丁目 芙蓉荘	脳神経外科
岡崎 慎哉	東光12条2丁目 緑東荘	東京女子医大麻酔科
尾崎 真	東京都世田谷区桜上水3の2の17 グリーンハイッ 403号	第2外科
小野寺一彦	神楽岡14条3丁目 神楽岡マンション	皮膚科
梶田 哲	8条19丁目右7号	第2内科
片山 英昭	神楽5条3丁目 東海コーポ	三井記念病院
加藤優香子	東京都台東区小島町2丁目6の3 吉田ビル3のD	第1内科
川村祐一郎	豊岡3条1丁目 鈴木アパート	札幌 勤 医 協
北川 善行	札幌市白石区厚別町旭町 492	九州大学神経内科
北口 哲雄	福岡市東区馬出2丁目3の36 シバタ荘 2棟2階1号	千葉大学眼科
笹山千加志	千葉市矢作町 391番地	北大 整形外科
佐藤 佳子	札幌市中央区北4条西22丁目	麻酔科
鈴木 伸治	緑が丘5条1丁目 櫛部方	第1外科(大学院)
滝井 義隆	南4条21丁目 伊達嘉一方	第2内科
竹内 章二	4区2条1丁目	第2病理(大学院)
竹嶋 康人	東光10条2丁目 神藤マンション	第2内科
楯 玄秀	緑が丘2条3丁目 グリーン住宅	千葉大学眼科
長南 典秀	5条16丁目 大野方	北大内科(大学院)
塚本 光俊	鏡子市栄町1の1423	小 児 科
對馬 哲	札幌市中央区北3条西29丁目427	第2内科
土田 晃	緑が丘2条4丁目 加賀谷方	耳鼻咽喉科(大学院)
寺沢 憲一	神楽3条5丁目	小児科(大学院)
長島 泰行	緑が丘1条4丁目 本田金一方	第1外科(大学院)
長谷川 浩	旭神町零号 ドーミトリ医学荘	
林 秀雄	東光4条1丁目 エステートマンション101	

前田 康子	旭神町4 武王プラザ 118号	産 婦 人 科
松浦 順	金星町1丁目 中里コーポ	整 形 外 科
三上 淳一	室蘭市東町2丁目29の15 大川原病院寮	医 修 会 大 川 原 脳 神 経 外 科 病 院
宮川 宏之	旭神町2号 竹内方	第 2 内 科
宮崎 勢	緑が丘2条4丁目 加賀谷アパート	第 2 内 科
宮本 光明	緑が丘5-2 74R1-123	第 3 内 科
明円 亮	東京都世田谷区下馬3の13の7 コーポ静和C105	第 2 内 科
三代川齊之	5条21丁目 アサヒコーポ301	第2病理(大学院)
森合 哲也	神楽岡3条7丁目 谷方	第 2 内 科
森本 典雄	神楽6条13丁目 長浜方	第 1 外 科
宮津 誠	忠和6条5丁目	整 形 外 科
八木原一英	9条19丁目 木村マンション	整 形 外 科
山寺 一司	神楽岡6条6丁目 泰生コーポ	第 2 内 科
土井口 幸	熊本県玉名市中川2の1	熊本大学第2外科
井戸川篤志	札幌市白石区菊水7条1丁目 3の13 中村荘1号室	札 幌 勤 医 協
奥出 芳博	神楽7条11丁目 佐藤方	耳 鼻 咽 喉 科
久保 英機	神楽岡3条7丁目	第 3 内 科

※ 現住所の市町村名のないものは旭川市、勤務先病院名、大学名のないものは本学である。

## 昭和56年度入学式

4月10日(金)午前10時から、体育館において昭和56年度入学式が挙行された。今年度新しく本学の学生となった120名(内女子学生10名)は、晴れやかな顔で式に参列し、教職員・父兄約150名の見守りの中で、新入生を代表し秋山純君が元気よく入学誓約書を読み上げた。

式終了後は、講義室において学年担当、図書課、学生課からのガイダンスおよび学生代表からの挨拶を受け、大学生生活への1歩を踏み出した。

(学生課)

## 新入生合同グループ研修

4月18日(土)午後、新入生諸君が1日も早く豊かな学園生活を送れるよう、参加者相互のコミュニケーションを図ることを目的とした新入生合同グループ研修が旭川東急インにおいて行われた。

新入生120名は各グループに分かれグループ担任や同窓生と共に、自己紹介及び懇談を行った。

(学生課)



## 研究室紹介

### ■ 精神医学講座 ■ 高橋三郎

精神医学講座は、昭和51年4月に森田教授の就任によって創設され、53年9月に現在の宮岸教授にバトンタッチされました。教室創設以来まだ5年と日が浅く、種々の面で十分とは言えない現状ですが、各々が診療、研究そして教育のそれぞれの面で全力を尽しているところで

す。診療面では、昭和51年11月の附属病院開院とともに精神科神経科の診療が開始され、これまでに外来新患数は約2,000名におよび、また入院患者数は200名を超えています。その内訳では通常よくみられる精神疾患のほかに、身体疾患を背景とする症状精神病や各種の神経疾患患者も相当数を占め、脳血管障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、筋疾患などが多くみられます。そしてこのことは、近年の高齢化社会や医療内容の変化とともに、道北地方の医療事情の一端を反映しているものと思われます。

臨床講座であるため、研究面でも当然のことながら、実験的研究とともに、上述のような各種疾患やそれぞれの状態像に基づいた臨床的研究が、幾つかのグループに分れて行なわれています。

神経病理研究室では、教授の指導のもとに自由な雰囲気の中で臨床神経病理学を主眼に活動し、現在のテーマは老年性変化です。老化過程の指標になる構造物、病変の拡がりや精神症状の関係など興味ある問題が多くありますが、現在は加齢と共に神経細胞内に増加すると考えられているリポフスチンを電子顕微鏡で追いかけています。今後教室員が増えるにつれて変性、代謝、神経筋病変とその研究も拡がると思います。またそのための研究設備は電顕および光顕用マイクロームをはじめ十分に揃っており、今後とも臨床に直結した研究テーマに取組む方針です。

神経生理研究室では、まず実験的研究としてラットの周産期の低酸素状態がその後の成熟過程において、睡眠-覚醒周期に如何なる影響を及ぼすかということについて睡眠ポリグラフを用いて調べています。今後この研究を実験でんかんのKindling preparationと結びつけ、すなわちKindling-Neurotransmitter-Sleepの関連から実験をすすめたいと思っております。臨床的研究では、他の研究グループの協力を得て、各種の精神神経疾患の脳波およびポリグラフィ的研究を続けています。これまでに行なわれてきた主なものは向精神薬服用による脳波変化について、いわゆる $\alpha$ -昏睡について、断眠の脳波に与える影響、突発性波の持続的異常としてのSpike-wave status syndromeと周期性放電について、脳性麻痺児の脳波の推移、健康成人男子の睡眠パターンと第一夜効果、ナルコレプシーの終夜ポリグラフィなどです。

神経化学研究室では、ダブルビーム分光光度計、分光蛍光光度計、ガスクロマトグラフならびにデータ処理装置、真空凍結乾燥機など実験室の機器類は一応整備されました。そして精神分裂病や躁うつ病などの内因性精神疾患の成因に関する神経化学的、神経内分泌学的研究、さらに向精神薬の作用機序およびその体内動態に関する臨床生化学的研究をすすめ、より合理的な精神科薬物療法の道を探ろうと試みています。また神経内分泌学的手法を用いて、ナルコレプシー、ハンチントン舞蹈病などの神経疾患の病態生化学を追究しています。

以上のような各研究グループ別の問題追究の他に初老期、老年期の意識障害とくにせん妄状態の臨床的研究などを通して、院内各診療科や他の医療機関との連携を常に心がけています。

教室の一貫した基本方針としてそれぞれが自分達の目標に向かってゆっくりと、しかも休まずに仕事を続け、毎日の生活を楽しんでいるこのごろです。

(精神医学講座 助教授)

## 昭和56年度学生団体一覧

昭和56年度学生団体継続届及び設立届の提出された団体は次のとおりです。

各サークルに加入を希望する学生は責任者あて連絡して下さい。

(学生課)

昭和56年4月30日現在

	体育系団体	文化系団体	合計
団体数	30	26	56
加入学生数	686	346	1,032

体育系団体名	会員数	責任者	顧問教官
ラグビー部	36	倉林 均	鮫島 夏樹
準硬式野球部	30	長田 薫	坂井 英一
卓球部	33	高桑 良平	高村 孝夫
陸上競技部	8	小黒 恵司	美甘 和哉
スキー部	42	伴 俊明	東 匡伸
ゴルフ部	24	飯田 浩司	齋藤 孝成
ボディビルディング	15	酒井 博司	山下 幸紀
硬式庭球部	43	藤尾 直樹	米増 祐吉
バドミントン部	25	小原 充裕	山下 裕久
バスケットボール部	30	鎧谷 武雄	上田 則行
空手道部	18	笠茂 公弘	佐藤 利宏
柔道部	16	石川 雅嗣	平山 隆三
サッカー部	28	岡田 邦明	水戸 勉郎
バレーボール部	18	酒井 寛人	吉岡 一
剣道部	34	原 隆志	原田 一典
山岳部	11	郡司 勇治	八幡 剛浩
弓道部	30	川嶋 栄司	黒嶋 晨汎
徒歩旅行の会	20	松山 清治	笹森 秀雄

アーチェリークラブ	17	平井 克幸	丸子 基夫
大東流合気武道クラブ	11	榊原 隆次	中島 進
軟式庭球部	21	森 千里	宮岸 勉
硬式テニス同好会	41	大畑千鶴子	河原林忠男
スイミングクラブ	23	服部 健司	竹光 義治
アイスホッケークラブ	11	伊藤 善也	美甘 和哉
軟式野球同好会	14	山口 聡	平野日出征
白い恋人 <small>(基礎スキー&amp;山岳スキー同好会)</small>	39	武田 寛樹	丸子 基夫
ハンドボール同好会	9	小村 好弘	平野日出征
サイクリングクラブ「チャリンコの会」	16	大坂 喜彦	笹森 秀雄
ボウリング同好会	12	渡辺 泰男	土肥 聡明
Sailing & Padding (ヨット及びカヌー同好会)	11	林 達哉	加賀谷寿孝

文化系団体名	会員数	責任者	顧問教官
写真部	16	朝倉 利久	星野 了介
英会話クラブ	12	片山 道弘	平野日出征
医療研究会	45	小市 健一	鮫島 夏樹
天文クラブ	13	青島 正大	吉田 逸朗
茶道部	16	中村 恵子	吉田 征子
棧敷文の会	21	服部 健司	岡田 雅勝
映画研究会	20	武藤 福保	建部 高明
将棋部	20	川端 規弘	上口勇次郎
ドイツ語研究会	9	杉江 広紀	丸子 基夫
Jazz研究会	10	幸村 近	大熊 憲崇
囲碁同好会	14	高田 稔	岡田 雅勝
美術部	10	片山 雄一	小川 秀道
ギター部	10	石田 栄	原田 一典
ロック研究会	13	松田 年	土肥 聡明
ミニ・コミュニケーション研究会	12	大山 昌宏	原田 一典
障害者問題研究会	15	有吉 紅也	笹森 秀雄
SDC (Social Dancing Club)	13	相沢 仁志	牟禮 一秀
聖書研究会	5	吉田 浩二	黒田 一秀
C P U	7	坂本 淳	福山 裕三
“悩む”会	11	渡辺 泰男	平塚 寿章
プラス・アンサンプル	14	豊田 典明	北 進一
弦楽合奏同好会	13	吉田 英次	北 進一
科学論研究会	5	仲谷 了	中島 進
女子学生のひろば	6	遠山三四夏	石橋 宏
V.R.A (ビデオ研究会)	6	向 和男	三森 研自
フォーク研究会	10	松本 行弘	渡辺 信

## 少年の交通法令違反連絡制度について

道警では、青少年ドライバーによる交通事故防止対策の一環として、20才未満の少年を対象に「保護者等に対する少年の交通法令違反連絡制度」を本年5月1日から実施しています。この制度は、少年ドライバーが悪質危険な交通法令違反を行い、再犯性が高いと認められる場合、その違反の事実をそれぞれ保護者等（保護者、学校長、雇用主）に対して文書により連絡を行うものであり、したがって本学学生の上記に該当する違反があった場合には、保護者及び本学学長に連絡されることとなります。

この制度の趣旨は、違反の事実をそれぞれ保護者等に対して文書により連絡を行うことによって、保護者等の少年に対する適切な指導を促し、保護者等の温かい指導によって、その運転行動上の危険性を減じさせ、もって少年の交通事故を未然に防止するとともに、その健全な育成を図ることにありますが、諸君がこの趣旨を十分理解し、より一層交通安全に留意することを切望します。

（学生課）

## ----- 課外活動短信 -----

### スキー部

3/4 ~ 28 東医体冬季大会

男子滑降 上戸敏彦 9位

ノルディック 8km 石原敏道 1位、西川祐司 13位

15km 石原敏道 2位、西川祐司 8位

リレー Aチーム 2位、Bチーム 6位

総合順位 3位

女子大回転 浜口千佳子 1位

ノルディック 8km 赤平百絵 1位、池田喜久子 4位

15km 赤平百絵 6位

3/4 サンバレー大回転 3/4 旭岳大回転

3/4 ~ 5/2 黒岳合宿 3/4 黒岳大回転 3/4 旭岳大回転

### 将棋部

5/6・10 春期北海道学生将棋大会 準優勝

### バドミントン部

5 大学リーグ戦 団体 4位

3/4 ~ 17 北医体 団体戦 3位

個人戦ダブルス 山崎・福田 3位

シングルス 山崎 3位



## 窓 外

天 羽 一 夫

四国の小都市徳島の中心街を少し離れるとまだ明治以前からの居宅も多く、私の陋屋もその一つで庭には貧乏家士の常として柿の木が並び、ザクロ、ビワ、夏ミカンなどのなりものが結構季節を味わわせてくれていた。戦争中は御多分にもれず芋なども作り、鶏も放し飼いにしていたが次第に世情も代ってくると雑草が茂りはじめ、茂り出す四月頃からは藪蚊の発生のひどいため誰も庭の手入に尻込みして挙句の果てはムグラ、ドクダミ、メヒシバ、アレチノギク、ヒメムカシヨモギなどが膝を埋めだして真夏には窓も開けられないほどになる。ときには一念発起し蚊取線香をたき、殺虫剤を撒きながら草抜きにかかるが草いきれと猛烈な蚊の攻勢に早々に退散する毎年であった。しかし子供の成長につれて手狭になったのを機会に家の改築にかかったがとても庭まで手が回らず辛抱していたが、毎年梅雨時のあまりのウツしさに堪りかねて少々庭に手を入れることにした。庭師はやれ石だ木だとすすめるが、当方名石名木を求める余裕もなく、雑草さえ生えねばよいとして小さいサツキ、ツツジ

クチナシなどの花木を一面に植え、欲張ってその間にクスノキ、サクラ、ウメ、モクレン、サルズベリ、モチなどの成長の遅そうな花木も入れた。数年は仲々良い気分だったが10年もすると子供同様な木々も成長し、雑草こそ生えないが夏には家が暗くなるほどになって了った。今は母がボヤキながらも時々枝打ちをしているらしい。

旭川に来てアイヌ記念館の近くに居を定めたものの、矢張り庭までは手が回らず雑草の茂るにまかせていたが道路ぶちのこととあまりにも体裁が悪いので去年は雑草の間にトマトを植えたところ見事に育って夏の野菜に不自由はしなかったが、草をかきわけてなりものを採すのには些か抵抗があるので今年は雑草の根絶をはかって休みにはスコップを抱えて奮闘している。スギナ、タンポポ、オオバコ、クロバネが主なものだが皆根が深く30cm以上も掘らねばならないので骨である。家人は誰も手伝わず見ていて冷やかすだけ。やってくるのは御馳走のあるのを知っている小鳥達で掘り返す直ぐ近くまで来て虫をついばんでいる。猫の顔よりまだ狭そうな庭なのにまだ半分も抜けていない。雑草の様に云う言葉もあるがしっかりした根を持たなければ雑草にもなれないらしい。旭川に来てもう5年、我が家もそろそろ根をおろさねばと思っているのに仲々思う様にはゆかないものである。それはともあれもう苗屋の店頭には相当大きいのが並んでいるのに、これでは今年のものになるやら。8月頃アイヌ記念館の近くをお通りの節はこの成果を御覧下さいもうまくゆけば冷たいトマトを御馳走出来るかもしれません。

（放射線医学講座 教授）